

# 市総合計画の見直しにあたっての 委員ヒアリング結果及び対応等

令和2年9月25日



# I ヒアリングの概要 〈 令和2年9月1日から9月10日に実施 〉



- ・ 新たな計画については、これまでの協議の中で、委員の皆さまからお伺いしたご提案や想い、今回の新型コロナウイルス感染症の影響等に対する国の動向等を踏まえ、計画のあり方やその概要等について、筋道を立てた形で文章化させていただき、素案として整理。
- ・ 今回のヒアリングでは、この素案をもとに個別に意見交換させていただき、委員の皆さまから、主に次の2つの論点でご提案・ご意見をいただいた。

## I 計画全般に関すること

策定時期、見せ方、名称、印象等

## II 計画素案の内容

- (1) 新たな計画のあり方に関すること
- (2) まちづくりの理念に関すること
- (3) まちづくりの経営指針に関すること
  - ① 解決すべき課題やテーマ、目指すべき目標等に関すること
  - ② 重点的に取り組む事業に関すること
    - ア 共創力の強化に関すること
    - イ ひと・まち・しごとの充実強化に関すること
    - ウ 暮らしに寄り添う行政サービスの充実強化に関すること
  - ③ 推進に関すること

## 2 ヒアリングの結果及び対応

### I 計画全般に関すること (その1)

項目	主なご提案・ご意見	対応・方向性等
① 策定期期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な意見はあると思うが、昨今の危機事象に柔軟に対応できる考えを早期に示すためにも、このような計画は<u>今年度中に策定</u>すべき。</li> <li>・コロナ禍の<u>今だからこそ計画を策定</u>して市の方向性を決めるべき。</li> </ul>	今年度中に策定
② 伝え方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読む人が限定されてしまわないよう、<u>年齢別などにより伝え方を変える</u>と良い。</li> <li>・プロセスや考え方を残すという考え方は理解するが、文字より、絵や動画の方がイメージの共有ができる。<u>イメージに残りやすいものを</u>。</li> <li>・多くの<u>市民に理解を深めていただく</u>べき。</li> <li>・計画の存在をわかってもらうチャンス。</li> </ul>	今後、検討
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・答申をはじめ、対外的な説明の際は、計画の概要をはじめに主として説明し、<u>計画のあり方を見直したことなどは参考として説明</u>する手法も良いかもしれない。</li> </ul>	記載内容の確認 資料3 P8~9 P44~51
③ 内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな計画の内容については<u>全体的に同意</u>できる。</li> <li>・「行政の計画」「中長期の目標を定めない計画」になる懸念を持っていたが、「共創のまちづくりのための計画」であり、<u>中長期の課題やテーマ、目標が整理された</u>。</li> <li>・<u>今までの意見をまとめたもの</u>であり、ストーリーが確立されていて良い。</li> </ul>	今後、原案を踏まえ磨き上げ

## 2 ヒアリングの結果及び対応

### I 計画全般に関すること

(その2)

項目	主なご提案・ご意見	対応・方向性等
④名称	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>老若男女問わずわかりやすいもの</u>であれば良い。</li> <li>・<u>「××計画」や「△△プラン」など固い印象</u>になり、手に取りにくい。極端な話、「いわき共創まちづくり」だけでも良い。</li> <li>・「基本プラン」だと、期間やいつまでに何を実施していくのかなどがイメージされる。常に更新を図っていく性格を有しているため敢えて名称をつけるのであれば、<u>「ローリングプラン」</u>などが良い。</li> <li>・理念と指針を総称して「プラン」と称することについては問題ない気もするが、条例を含むため、「プラン」とするかは行政内部で整理してかまわない。</li> </ul>	<p>今後、検討</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■市共創まちづくり基本プラン</li> <li>■市共創まちづくりローリングプラン</li> <li>■「プラン」「計画」等はいらないなど</li> </ul>

## 2 ヒアリングの結果及び対応



### II 計画素案の内容

#### (I) 新たな計画のあり方に関すること

項目	主なご提案・ご意見	対応・方向性等
①柔軟性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題の解決策も含めて<u>常に見直していく</u>ことは良い。</li> <li>・何が起きるか分からない世の中、先の読めない時代において、「<u>まちづくりは常に未完成である</u>」はまさにその通り。</li> <li>・目まぐるしい環境変化の中では、<u>常に改善・更新</u>を図っていくべき。</li> <li>・その時代・時代の人たちが、それぞれの能力で共助力を発揮し、<u>次の時代に人をつないでいく</u>べき。</li> </ul>	概ね合意
②重点選別化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>資源の重点選別化</u>は理解できる。</li> <li>・重点選別化の<u>考え方が重要</u>である。</li> </ul>	概ね合意
③わかりやすさ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行政が何を目標に重点的に取り組んでいるかを、<u>分かりやすく伝えるという視点</u>が大事。</li> <li>・予算の制約などを分かってもらうために、<u>財政状況</u>を市民に分かりやすく伝える。</li> <li>・「SDGs」で世界中の各ステークホルダーが共通の社会課題、統一的な価値観を把握。<u>想定していなかった事象には、プラス面とマイナス面がある。</u></li> <li>・計画体系を簡素化するにあたり、他の<u>個別計画等との関係性</u>をしっかりと整理しておくが良い。</li> </ul>	<p>今後、検討</p> <p>記載内容の確認 資料3 P47 P10~11</p>

## 2 ヒアリングの結果及び対応

### II 計画素案の内容

#### (2) まちづくりの理念に関すること

項目	主なご提案・ご意見	対応・方向性等
① 共創の必要性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・以和貴まちづくり基本<u>条例を市民に理解いただく</u>ことが進め方として重要。</li> <li>・市民の「<u>理解</u>」を「<u>納得</u>」に変えることが共創力の強化には不可欠。</li> <li>・これまで行政主導でまちづくりが進められてきた側面もあり、いきなり「自治体運営が厳しい」というのは説得力がない。</li> <li>・自助・共助・公助のうち、<u>共助の視点が薄れ始めている</u>。</li> </ul>	今後、検討
② 共創のしくみ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>地域課題の解決が市内企業・業界の利益につながる</u>ような形を産学官で構築できれば良い。例えば、市民団体等による行政サービスの付加価値アップ→交流人口増→商売繁盛の好循環が生まれる可能性もある。</li> <li>・行政にもできない部分があるだろうから、<u>行政ができない部分は外部団体（市民団体、青年会議所など）に任せる</u>など、外部を巻き込んで良い。</li> <li>・まずは、行政が果たすべき<u>公助の部分にしっかり取り組み</u>、その上で、「行政はここまでやるので、この部分はお願いしたい」といった形で、<u>自助・共助を支える</u>という形ではないか。</li> </ul>	今後、検討

## 2 ヒアリングの結果及び対応

### II 計画素案の内容

#### (3) まちづくりの経営指針に関すること

##### ① 解決すべき課題やテーマ、目指すべき目標等に関すること（その1）

項目	主なご提案・ご意見	対応・方向性等
① 背景等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「バックキャスト」であれば、「将来的にこうなるから、今、こういう取り組みをする」という意味を説明し、その上で、具体的な例示を示すと良い。</li> </ul>	記載内容の確認 <b>資料3 P24</b> <b>P30～31</b>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍で社会は<u>変容していくといった視点</u>を更に盛り込むと良い。</li> <li>・コロナや台風の対応をもっと盛り込むべき、という意見があるかもしれない。</li> </ul>	
② 目指すべき目標等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中長期の社会像に関して、「危機の突発的な発生の常習化」は、「<u>常態化</u>」の表現の方が相応しい。</li> </ul>	記載内容の確認 <b>資料3 P32～34</b>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民の目指すべき姿は、「本市で住んでいる市民の方や本市に関わる方」を主体としたり、居住地という表現を工夫するなど、<u>本市に根差した形</u>にしてはどうか。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経営指針で ①いきなり「分断」ではじまることと、②その解決方法が提示されていないので、「<u>先の震災など、過去の経験を活かす</u>」などが良いのではないか。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>将来を担う子供たちにいわき市の魅力を話せるようになってもらいたい。そのために、<u>郷土愛・帰属意識に関する記載</u>があっても良い。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「中長期で目指す目標・テーマ」について、「<u>住んでよかった、住み続けたい、いわき</u>」を一言でいうと「<u>well-being</u>」ではないか。地域社会の望ましい姿・状態として「well-being」というキーワードを使うことを提案。</li> </ul>	

## 2 ヒアリングの結果及び対応

### II 計画素案の内容

#### (3) まちづくりの経営指針に関すること

##### ② 重点的に取り組む事業に関すること    ア 共創力の強化に関すること

項目	主なご提案・ご意見	対応・方向性等
<b>① 共創力の強化</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民がまちづくりの担い手になるためにも、自分の住んでいる地域を知る必要があると思う。<u>地域を知るという教育の視点</u>があるとよい。</li> <li>・市民、事業者等に新たな計画の考えを一番効果的に伝える手法として、まずは、まちづくりに常に携わっている<u>市職員一人一人に浸透させる</u>ことが肝。</li> <li>・地域の共創が広がっていったときに、<u>地域に決定権をもたせる仕組み</u>をどう作るかが大事になってくると思う。</li> <li>・民間の力を引き出す<u>公共私間の対話の場</u>は重要。最近、まちづくりに取り組む企業も増えている。</li> <li>・<u>子どもたちの参画</u>も重要で、例えば、SDGsをテーマにするなど、まちづくりについて考える機会を創るべき。</li> </ul>	<b>重点事業選定にあたっての観点</b>



## 2 ヒアリングの結果及び対応



### II 計画素案の内容

#### (3) まちづくりの経営指針に関すること

##### ② 重点的に取り組む事業に関すること イ ひと・まち・しごとの充実強化に関すること

項目	主なご提案・ご意見	対応・方向性等
① 考え方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>創生総合戦略が「ひと・まち・しごとの充実強化」の部分にそのまま入るのではなく、創生総合戦略は、政策広範にわたる計画の一つで、その中から経営指針に位置づけられる事業があるという形になるべきだ</u>と考える。</li> <li>・人口減少が進み、財源確保が難しくなる中、<u>お金を使わなくてもできることはないのか</u>といった視点も必要。</li> </ul>	重点事業選定にあたっての観点
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>「人口減少に歯止め」は現実的ではない</u>と思われるため、<u>「最小限に食い止め」</u>「人口減少時代でも安全・安心とか、持続可能なまちづくり」等が良いのでは。</li> </ul>	記載内容の確認 <b>資料3 P35～38</b>
② ひと・しごと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍の中、精神的にも、金銭的にも<u>「女性が働く重要性」</u>を認識。</li> <li>・<u>労働力を外国人にも頼る</u>社会になってきている。</li> <li>・小さな頃から人と人との関係性、人情を教えるという意味で<u>「教育」は最も重要</u>。</li> <li>・新たに創業・起業する方が少ない。</li> </ul>	重点事業選定にあたっての観点
③ まち	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>住みやすさの先に「魅力」</u>という部分がないと、若い世代がいなくなってしまうなど、今後厳しいと思う。</li> <li>・<u>デジタル化を進めると、人と人とのつながりが希薄になる</u>などの懸念もある。投げっぱなしにならないというニュアンスを入れたほうが良い。</li> </ul>	重点事業選定にあたっての観点

## 2 ヒアリングの結果及び対応

### II 計画素案の内容

#### (3) まちづくりの経営指針に関すること

##### ② 重点的に取り組む事業に関すること 暮らしに寄り添う行政サービスに関すること(その1)

項目	主なご提案・ご意見	対応・方向性等
① 考え方	<p>・「<u>住み続けたい、いわき</u>」の一番の要素が安全・安心であることを前面に出しても良いのではないかと。災害だけでなく、暮らしや雇用が確保されていることも含めた生活全般に関する安全・安心をテーマにしても良い。</p> <p>・「共創力の強化」という重点テーマもある中で、「行政サービスの充実強化」とすると、行政の取組みで安全・安心を確保するといった誤解を招いてしまう可能性もあるので、重点テーマの表現を工夫。</p>	<p>記載内容の確認 資料3 P34~38</p>
	<p>・自助・共助の重要性が増す観点から、「平常時のみならず、緊急時においてもしっかりとセーフティネットの確保に向けて対応できる」といった表現は、「<u>平常時は自助・共助の仕組みを整える</u>」「<u>緊急時は行政をはじめコミュニティ組織、地域を越えた連携体制など臨機応変に対応できる仕組みを整える</u>」等の形で表現を工夫。</p>	
	<p>・「重点的に取り組む3つのテーマ」と、「市民や市の目指す姿」の実現につながる取組みを選別する「4つの視点」の対応関係をわかりやすく。</p>	
	<p>・地域の特性に応じた形で、その<u>地域の方々の住みやすい姿を目指す手法はそれぞれ変えるべき</u>。</p>	<p>重点事業選定にあたっての観点</p>

## 2 ヒアリングの結果及び対応

### II 計画素案の内容

#### (3) まちづくりの経営指針に関すること

##### ② 重点的に取組む事業に関すること 暮らしに寄り添う行政サービスに関すること(その2)

項目	主なご提案・ご意見	対応・方向性等
②担い手・地域	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共創は「<u>副業</u>」がキーワード。ボランティアでは継続しない。必ず対価を払うことが必要。人手不足は、様々な人の副業で補える。</li> <li>・<u>地域の中での自助・共助・公助</u>が高齢化社会の中で、より必要となる。</li> <li>・人材育成は重要だが、具体的に何をやり、人と人とをどう結び付けるのかが課題。特に市民の「SOS」が届きづらく、その観点では<u>人材育成は必要</u>。</li> <li>・建物をつくるだけでなく、維持管理も含め、今の時代、慎重に考えなくてはならない。</li> <li>・まちづくりをするうえで、<u>支所との連携</u>をもっと推進してみてもどうか。支所職員の方が地域住民に近い。住民も支所なら気軽に立ち寄れる。</li> </ul>	重点事業選定にあたっての観点
③防災・減災	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ対策用品などで不足状況を届けられる<u>掲示板</u>のようなものがあると良い。</li> <li>・<u>治水事業の見える化</u>は、安全・安心の取組みが進んでいることが市民に伝わりやすい。</li> <li>・森林の水源涵養機能等が、市民の安全・安心確保に大きな役割を果たしているほか、<u>森林整備は、SDGsや持続可能性、生物多様性にも貢献</u>している。</li> </ul>	

## 2 ヒアリングの結果及び対応

### II 計画素案の内容

#### (3) まちづくりの経営指針に関すること

##### ③ 推進に関すること

項目	主なご提案・ご意見	対応・方向性等
<b>① 進行管理</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画の進捗や結果に基づき計画を見直す報告会を行うなど、<u>市民に結果を見せる方法</u>を考えること。</li> <li>・5年間を見据え上で、毎年、取組みや事業群を見直し、場合によっては新たな事業の追加や位置つけた事業の見直し、重点テーマの修正をしていくサイクルの中で、<u>まちづくり市民会議などを活用</u>すると良いのではないか。</li> <li>・<u>経営に特に重要なのはPDCAのC(チェック)</u>であり、市は、市長が「経営感覚を持って」推進していく必要がある。</li> <li>・審議会やまちづくり市民会議も<u>WEB(オンライン)開催</u>できるようにした方がよい。</li> </ul>	今後、検討
<b>② 市政の適正化</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>市民が求めているものに予算が付くような工夫</u>が必要。</li> <li>・適正ではない補助金などは見直していくなど、<u>市の支出面をチェック</u>していく必要がある。</li> </ul>	

### 3 今後の主なスケジュール(予定)

#### ■ 10月中旬～下旬 パブリックコメント

(市民意見募集/2週間程度の期間で実施) ※概要案はスライド14

#### ■ 11月上旬 パブリックコメントの結果反映

(審議会委員への報告・協議[審議会、ヒアリング等])

#### ■ 11月中旬 答申

(※委員任期:令和2年11月18日まで)

#### ➡ 審議会からの答申を踏まえて、年度内に策定

(庁内における事業調整等の実施)

## 3 今後の主なスケジュール(予定)

### ※パブリックコメント(市民意見募集)の概要案

今回御審議いただいた資料について、審議結果を反映させた上で、以下のような形で意見募集を行う予定です。

#### 「総合計画見直し」に関する意見募集について

本市では、総合計画の見直しを行っており、今般、新たな計画について、素案の検討資料を作成しましたので、広く市民の皆さまから御意見をいただくため、本件に関する意見募集を次のとおり実施します。

#### 1 意見募集の対象

総合計画見直しに係る新たな計画素案の検討資料

#### 2 意見募集期間

令和2年10月●日(●)から10月●日(●)の●日間

※必着となります。

#### 3 意見の提出方法

メール、FAX、郵送(御意見のほか、住所・氏名等を記載)

※電話での御意見は、受付の対象外とさせていただきます。

#### 4 お寄せいただいた御意見等の取扱い

お寄せいただいた御意見は、新たな計画の作成の参考とさせていただくため、御意見に対する市の考え方などを検討・整理し、その内容について、市のホームページに掲載させていただきます。なお、お寄せいただいた御意見に対する個別の回答は致しかねますので御承知おきください。

#### 5 資料の入手方法

資料は市公式ホームページに掲載するほか、本庁(政策企画課)・支所窓口で入手可能です。